

1. 社会福祉法人福生会 本部
有料老人ホーム

令和2年度 事業報告書。

2. 養護老人ホーム福生園
特別養護老人ホーム嘉齢荘
居宅サービス事業

令和2年度 事業報告書。

社会福祉法人 福生会

1. 令和元年度 法人本部事業報告

(1) 理事会の開催

第1回 理事会 令和2年6月10日

- 主な議題 1. 法人本部 施設 各令和元年度事業報告
2. 令和元年度決算報告。社会福祉充実計画。
3. 定時評議員会の招集について

第2回 理事会 令和元年6月26日

- 主な議題 1. 理事長の選定について

第3回 理事会 令和2年11月14日

- 主な議題 1. 介護福祉士就学資金貸付制度における連帯保証について
2. 理事長職務執行状況の報告

第4回 理事会(決議の省略による理事会) 令和3年3月11日

1. 第2回評議員会の招集について

第5回 理事会 令和3年3月24日

- 主な議題 1. 令和2年度補正予算書
2. 法人本部 施設 各令和3年度事業計画書
3. 令和3年度予算書
4. 就業規則一部改定について
5. 介護福祉士就学資金貸付に係る連帯保証について
6. 理事長職務執行状況の報告

(2) 評議員会の開催

第1回 (定時) 評議員会 令和2年6月26日

- 主な議題 1. 法人本部 施設 各令和元年度事業報告
2. 令和元年度決算報告。社会福祉充実計画。

第2回 評議員会 令和2年3月26日

- 主な議案 1. 令和元年度補正予算書
2. 法人本部 施設 各令和3年度事業計画書
3. 令和3年度予算書

(3) 監事監査の実施 令和2年6月4日

評議員選任・解任委員会の開催 令和元年6月26日

(4) 社会福祉充実計画について

社会福祉充実計画は、平成29年度は本館建替え用地取得、2年目はフロイデンハイム外壁修理、3年目は本館設計、4年目は建築の計画でした。行政確認したところ、都市計画法により6m道路に面していないので建築用地として不可となり用地取得は保留、建築計画は現在の敷地の中で見直し検討。平成30年8月には、フロイデンハイム外壁修理の工事見積を取りましたが、9月大型台風による被害状況が法人会館、本館、西館、フロイデンハイムなど、修繕見積り火災保険申請に追われ、外壁修理は見送りました。令和2年台風被害の修理は終了しました。本館建替えは引き続き検討中。令和2年度進捗なし。

(5) 有料老人ホーム運営について

運営懇談会を年二回実施し、会計報告（決算）、アンケートを実施し、ご意見を運営に反映させております。しかし新型コロナ感染防止のため緊急事態中は広告、見学を自粛したため、令和2年度前半の新規入所は1名様（入居者夫）のみ、10月に広告と見学を再開し、令和3年3月に4組7名様新規契約、この方々は4月以降の転居となります。フロイデンハイムの退去状況は、退去1名様、死亡退去6名様、空室は25室（ショート3室）となっています。ロイヤルケア・フロイデンは、フロイデンより2名様移動、空室5室となりました。

令和2年3月以降は一部行事休止。ボランティアもお断りをしてお花見、クリスマス会をしました。敬老祝賀会は、百寿のお祝いの方が2名様ありましたが例年のようにご家族は招待できませんでした。二度の運営懇談会も新型コロナウイルス感染防止、コロナワクチンの説明に終始し、一部入居者様は少々ご不満であったかもしれません。（入居状況および行事等実施状況は別紙のとおり）

(7) 養護老人ホーム、特別養護老人ホーム嘉齢荘入居建物の耐震補強工事および増改築について

平成27年の本館建物（昭和54年竣工）の耐震診断の結果を踏まえ、堺市介護事業者課および高齢施策推進課へ計画を説明しましたが堺市等からの補助については耐震化工事に若干の補助金が出るものの増改築工事には補助はなく全額自己資金となります。

29年度は用地取得を計画しましたが、都市計画法において使用できないため用地購入は保留、30年度は他施設視察、現在の敷地内での建て替えを検討、しかしながら定員割れの現状を鑑み、運営状況の厳しさに建替えを躊躇しています。建替えて二倍の広さになりますが、配置基準は今のままで、個室に入られた入所者のお世話を現状の職員体制で十分支援できるか自信がありません。

(8) 社会貢献事業について

社会福祉法人の公益的な取組として、『大阪しあわせネットワーク』に引き続き参加し、基金の拠出、当会所属のコミュニティソーシャルワーカーの相談支援業務への参加、生活支援物資の保管場所の提供、食料配布などを実施しました。

28年10月から「ぬくもりカフェふせお」二ヶ月に一度実施しています。ぬくもりカフェは厚生労働省新オレンジプラン（認知症施策）に基づく堺市の認知症予防対策です。自治会老人クラブにお知らせし、好評を得ていましたが、令和2年3月より休止しています。

最近子供の孤食が問題となり「こども食堂」をしてほしいとの声をいただき、平成29年3月から二ヶ月に一度「みんなの食堂」と名付け、こどもだけでなく大人、高齢者、大学生など、食事提供と学習支援、レクリエーションを行いました。市社協、中区役所、民生児童委員、NPO、久世小学校にもご協力いただきました。29年5月には地域協議会を開き、「みんなの食堂」は、生活困窮者に日々食事提供することを地域の福祉関係者（自治会、ボランティア、民生委員、社協等）に承認され、ご協力で実施してきましたが。令和2年3月からは休止し、毎日型のみんなの食堂のみ実施しています。

毎日型みんなの食堂は、令和2年4月～3年3月320食提供。（令和元年度は562食中子ども食堂が半分でした）職員資格取得応援は社会福祉士1名でした。

毎日型は生活困窮者対象のため緊急事態宣言下も実施し、令和2年6月一人福生園入所、一人は生活困窮者として賃貸契約をし、現在に至っています。

堺市での新型コロナ感染者数は一時一日100人を超え、外部の方を食事に受け入れることは感染の心配する声もありました。入り口では健康チェック、テーブル上はアクリルボード、毎回消毒し、今日まで感染者を出さずに実施してきました。

2. 各施設事業運営状況

介護老人福祉施設、短期入所、通所介護および訪問介護につきましては、介護職員の不足、福生園特定利用者へのサービス委託量の減少等の理由により当初計画の稼働率を確保できず、また、居宅介護支援はケアマネ増員に見合ったサービス件数増加に至っておらず、各事業所とも運営は順調という状況ではありません。養護老人ホーム福生園は新規入所より多い死亡退所があり入居率は低下傾向が止まりません。要介護状況も重度化しております。

福生園は、生活困窮者契約入所事業を申請し、養護の空き室を利用して、本来の養護に措置入所対象外の方と賃貸契約をしました。年齢、性別、国籍を問わず生活困窮者対象ですが、近い将来の本入所に繋がるように入所者の兄弟の方です。しかし年金があり養護の判定会議は通らない方でしたので3年度の契約の更新はできていません。

夫々事業報告および決算報告は別紙のとおりです。

- * 「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」内閣府（令和2年2月25日）、厚生労働省介護保険課通達を受け、福生会としての対応を検討。手洗い、消毒、マスク着用、検温。利用者様だけでなく、職員はもちろん外来者（業者等）確認。不要不急の外出、面会、他医療機関受診、外部介護保険サービス等控えていただくようにお願いしてきました。緊急事態宣言解除後も継続しています。「新しい生活様式」を守りながら、感染防止を第一に、発生状況を確認、通達に従い、運営してきました。感染すると高齢者の方は重篤になる可能性が高く、一般社会より厳しい対応を指示されています。行事、面会、外出等の機会が減少し、中には、認知症の進行、日常生活動作の低下が見られる方もあり対策を考えねばなりません。現在の所ウェブ面会を勧めています。

令和2年度新型コロナウイルス感染症緊急包拠支援交付金を申請し、車両、電動自転車、アクリル板、ロッカー、空気清浄機、消毒薬、マスク等を常備し感染防止に取り組みました。

おかげさまで、一年間入居者様は1名の感染もなく無事、職員はパート職員1名家族感染、濃厚接触者なし。（3年度は派遣社員1名感染し、現在就労制限中）

堺市は高齢者施設職員に令和3年3月PCR検査を2回実施して下さり、全員陰性でした。
令和3年5月6月には高齢者施設入所者職員にコロナワクチン接種、PCR検査も実施あり。

養護老人ホーム福生園・特別養護老人ホーム嘉齢荘・居宅サービス事業
令和2年度事業報告書

I. 施設サービス

1. 施設運営

(1) 施設運営設備関係

養護老人ホームの入所要件を満たす対象者や入所希望者が減少し、措置控えや他の高齢者施設への入所等により入所依頼が低調です。現場では、介護度の重度化への対応、また、新規入所者の獲得のため市地域福祉をはじめ介護支援専門員や地域包括支援センターへの働きかけに努めておりますが、長期入院退所や死亡による欠員補充が中々出来ず、年度通して52名前後の入所者数で推移しています。

特別養護老人ホームの入所待機状況は、医療機関や居宅介護支援事業所等から継続的に問い合わせがありますが総体的に特別養護老人ホームへの入所申込は落ち込んでいます。嘉齢荘では常勤介護職員の採用が進まず、入所者の日常の見守りが困難なエリアの入居を前年度に引き続き控えたこと、さらに新型コロナウイルス感染拡大防止のため入所者の熱発者等の隔離および新規入所者の一時容体観察用の居室をそれぞれ確保したことや緊急事態宣言等の期間中、新規入所を停止したことにより入所率は年度平均73.6%と低迷し資金収支ベースで赤字となりました。

その他の居宅サービス事業は、新型コロナウイルス感染拡大により新規登録者の減少や利用控え等の影響を受けました。

建物、設備、備品は、経年劣化や汚損がみられるものについて適宜補修を行い、耐用年数を経た設備・備品についても逐次入れ替えを行い安全快適な環境の整備に努めました。本館の給水、給湯配管の老朽化による漏水が発生しその都度改修していますが本格的な改修が必要と思われます。また、新型コロナウイルス等の感染症対策として感染者の隔離居室の陰圧化のため感染対策排気ユニットを整備し、空気除菌脱臭器を食堂や更衣室等感染拡大リスクの高いエリアに設置するとともに食堂には飛沫防止用のアクリルパネルの設置も行っております。

また、主として介護保険総合システム、財務会計システムおよび給与計算システムの稼働により各々業務処理が円滑にできました。音声入力や通信機能付き測定器（体温計、血圧計）を活用したバイタルチェックの自動送信による記録のICT化やオンラインによる会議、研修および面会の実施のための器具設備を新たに整備しました。

さらに、防災設備、エレベーター等の定期点検の励行・維持管理を遺漏なく行い、施設内外の衛生管理および設備の衛生化に努めました。

(2) 職員関係

従来の介護職員処遇改善加算に加えて、介護職員以外の職員にも支給対象が広げられた介護職員等特定処遇改善加算により令和2年4月に特定処遇改善手当を一時金として支給しました。2年度の採用活動については、ハローワーク、ネット求人、就職フェア（夏季中止、春季オンライン）、求人採用サイト設営、高校新卒求人等を行いましたが、介護職の応募状況は低調でした。嘉齢荘の常勤介護職員は2年度中について採用1名退職4名、次年度4月1日採用3名という状況でした。

介護福祉士資格の取得支援のため実務者研修の受講費の補助などを継続実施しました。また、介護支援専門員等資格取得の推進、さらに施設内・施設外の研修により職員の資質の向上に努めました。

令和1年7月採用のフィリピン人留学生2名は3月に日本語学校を卒業し1名は特定技能による常勤雇用、1名は介護福祉士養成校へ入学し非常勤介護職を継続予定です。新型コロナの影響で入国が遅れていたフィリピン人留学生2名が12月に入国、日本語学校へ通いながら非常勤介護職員として採用しました。次年度4月よりベトナム人留学生2名が介護福祉士養成校へ通いながら非常勤介護職員として勤務する予定です。

今年度は、非常勤職員で新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者1名出ましたが、事業所内での接触者に抗原検査を実施し感染拡大はありませんでした。年度末には堺市の事業として施設従業員を対象とした集中的PCR検査も実施しました。

2. 入所者処遇状況

- (1) 入所者の自主性の尊重と温かな家庭的雰囲気の中での明るく楽しい生活を基調とし、日課表（別紙）に示した食事、入浴、排泄、リハビリ訓練等の基本的なサービスに重点を置き処遇に努め、さらに年間処遇実施状況表（別紙）のとおりレクリエーション・諸行事等を実施したが、新型コロナ感染予防のため多くの行事を中止し、訪問による理美容や歯科診療・ケアも長期にわたり見合わせることになりました。福生園入所者の外部通所介護も感染拡大状況に合わせて随時利用を停止しました。入浴実施曜日時間は介護職員数の推移により適宜見直しを行っています。また、個々入所者の心身状況に応じた施設サービス計画に基づきサービス提供を行い、身体拘束廃止に向けた取り組みを継続実施しました。
- (2) 毎月の尿検査・血圧測定、X線検診等を実施し健康管理に努めるとともに、必要な医療・看護スタッフを配置し疾病の予防と治療を行いました。食中毒やインフルエンザ等の発生はありませんでしたが、新型コロナウイルスの感染防止対策として、年度を通じて、三密回避、面会者・業者等の入館制限、職員の健康管理の徹底や出勤制限、消毒・マスクの着用・換気の励行等を実施するとともに、感染が疑わしい入所者が発生した場合の隔離室の設定や感染防護用品の

準備などの対策を行いました。

安全安楽確保・事故防止リスクマネジメントの推進、感染症予防まん延防止、身体拘束廃止および褥創予防のため各対策委員会を定例開催し、各対策に努めました。

3. その他

- (1) 防災関係　　堺市中消防署の立入検査においては特に改善指示事項もなく、当局立会の消防総合訓練ならびに自主訓練を励行しました。
- (2) 各種専門学校等の研修・実習の受入　　福祉専門職養成の各種専門学校の実習、管理栄養士臨地実習は受け入れましたが、小中学校教諭の免許取得予定者の介護等体験実習、社会教育の一環としての小学生の高齢入所者とのコミュニケーション体験や中学生の職業体験はコロナ禍により受け入れを見合わせました。
- (3) ボランティアの活用　　喫茶ボランティアによる活動はほとんど見合わせました。
- (4) 情報等の開示　　「財務諸表等電子開示システム」、「介護サービス情報の公表」および弊会ホームページ等において法人および各施設、事業所の運営、介護保険サービス等に係る諸情報を広く開示し透明性の確保に努めました。
- (5) 社会貢献事業等の実施　　平成16年より大阪府社協老人施設部会が実施している社会貢献事業(生活困窮者レスキュー事業)が平成27年度から「オール大阪の社会福祉法人による社会貢献事業」として展開され、同貢献事業に継続して参画し、基金の拠出、当会所属のコミュニティソーシャルワーカー(CSW)の相談支援業務への参加、生活支援物資の保管場所の提供などを実施しました。
毎日型の『みんなの食堂』は感染対策を徹底し、年度を通して実施しましたが、地域の介護者、被介護者、高齢者などの交流、情報交換および情報提供の機会の提供のための『ぬくもりカフェふせお』や隔月実施の『みんなの食堂』は新型コロナウイルスのため開催を停止しています。

II. 居宅サービス、居宅介護支援サービス

1. 外部サービス利用型特定施設入居者生活介護

養護老人ホーム福生園入所者定員70名のうち特定施設対象者定員を30名に設定していますが、利用者実数は年度を通じて13名程度で推移しています。基準人員の職員を配置し入居者生活介護サービスを提供しました。また、外部サービスについては、前年度と同じく福生会デイサービスセンター（通所介護）、福生会ヘルパーステーション（訪問介護）およびアビリティーズ・ケアネット（福祉用具貸与）に委託しました。

2. ヘルパーステーション

利用者の居宅へホームヘルパーを派遣し、介護サービス計画に基づき、生活援助および身体介護サービスを提供しました。要支援者等には総合事業として介護予防・生活支援サービスを実施しました。新型コロナ感染拡大に伴い、デイサービス利用を控えた利用者の入浴介助や買い物代行の希望増等により在宅対象サービス提供件数が前年比28%増となっております。一方、福生園特定入所者については受託件数が7%程度減少しています。

3. デイサービスセンター

センターにおいて、介護サービス計画に基づき、日帰りで食事、入浴、レクリエーション、余暇活動など各種サービスを提供しました。近年、レスパイト志向から、身体的機能の維持・回復のための機能訓練のニーズが高まってきており、専従の訓練員による訓練サービスに積極的に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染拡大の影響として、利用控え、新規利用申し込みの激減、感染防止対策業務の増大による職員の負担増があり、感染防止対策として飛沫防止アクリル板の設置、1テーブル当たりの定員削減等を行いました。稼働率は年平均78.3%で前年比約5%減となっていますが、要介護度4、5の利用回数が増加したことおよび感染拡大防止対策への対応を評価して2区分上位の報酬区分を算定できる特例が設けられた(6~3月)ことによりほぼ前年度並みの介護保険収入を維持できました。

4. 居宅介護支援事業所

利用者のケアプラン作成、プランに基づく居宅サービス利用の支援を行うとともに、要介護認定調査を受託実施しました。また、地域包括支援センターより介護予防計画の原案作成業務を受託しました。今年度の支援件数は延べ居宅介護支援918件、介護予防計画313件で共に前年比106%となっています。新型コロナ感染状況の影響はあまりなく月平均2.4件の新規利用がありましたが、施設入所および死亡等により年間で26名の支援終了がありました。

III. 各事業の運営細部内容は別紙のとおりです。